

ALTEC
LANSING®

ALTEC LANSING SPEAKER SYSTEMS

総合カタログ



Index

Voice of the Theatre Series	2/3
A5 System	2
A7-500-8 System	3
A7-8 System	3
Studio Monitor	3/4
9846-8A	3
620A Monitor	4
612C Monitor	4
Hi-Fi Speaker Floor Standing	5/6/7/8
873A BARCELONA	5
846B VALENCIA	5
846E VALENCIA	6
878B SANTIAGO	6
879A SANTANA	7
STONHENGE II	8
Hi-Fi Speaker Bookshelf Type	7/8/9
BELAIR Mini Monitor	7
Model SEVEN	8
Model NINE	9
● DIG MK-II	9
Duplex Speakers	11
604-8G/605B/601-8D	
Low Frequency Speakers	12
515B/416-8B/411-8A/414-8B	
High Frequency Drivers	12
288-16G/802-8D/806-8A	
High Frequency Horns	13
1003B/311-90/311-60/511B/811B	
Dividing Networks	13
N500F/N501-8A/N801-8A	
Full Range Speakers	14
420A/755E/403A/405A	
Horn Adaptors	14
30940/30172/30973/21216/30546	
Power Amplifier	15
9440A	
Active Equalizer	15
9860A/729A	
ALTEC Speaker Systems/ユニット構成図	16
A1X/A4/A5/A7-500-8/A7-8/1225A/1221A/ 815A/415E/620A/612C/9846-8A/873A/846B /878B/846E/879A/STONHENGE II/BELAIR/ MODEL NINE/MODEL SEVEN/DIG MK-II	

新着のビルボード誌（1975年版）の統計による、全米のレコーディング・スタジオのモニタースピーカーシステムのメーカー別採用実績は、次の通りです。

ALTEC	522
JBL	339
EV	82
KLH	39
AR	34
TANNOY	24

この数値は、ALTECスピーカーが、いかにプロのエンジニアに信頼され、実際に使用されているかを、如実に示すものと云えます。

ALTEC ランシング この偉大なる世紀のブランドには、半世紀以上にも及び、栄光と不滅の歴史が深く刻みこまれているのです。

1920年初頭、ALTECはウェスタンエレクトリック社の1ディビジョンとして、異なる名の下に当時の優れたレコーディングや、モニターリングのシステムを、録音スタジオ、放送局に供給してきました。基本的にこれらのシステムのクオリティは、今日の水準に達しており、当時の技術レベルより、数段優秀であると認められておりました。

1926年初頭、世界で初めてトーキー映画の制作を技術的に可能としたのも、ALTECの先駆者であり、“Al Jolson”を主演とした“JAZZ Singer”が初のトーキー映画として封切られ、世界的な反響を巻き起しました。これにたずさわったエキスパート達は、その後も録音再生技術の改良を重ね、全米のあらゆる主要劇場、コンサートホール、公会堂に彼らのシステムを浸透させていったのです。ALTECでは、自ら、これら一連のプロフェッショナルスピーカーシステムを、“ヴォイス・オブ・ザ・シアター”（劇場の声）と名づけ、現在も第一級のプロ用再生システムにふさわしい愛称として、正当性と誇りをもって使用しております。

ALTEC社は、1937年、メインスタッフにWE時代のエキスパート達の多くが参加し、創立しました。更に1941年、劇場や、スタジオ音響機器を製造していたランシング・マニファクチュアリングの吸収合併を行ない、ここにALTECランシングが発足し、世界の音響界の夜明けとも云うべき輝かしい1歩が踏みだされたのです。

レコーディングスタジオ、放送局、ホール等のプロ用スピーカーは、苛酷なほどの注文をつけられます。何故ならミキシング、ミックスダウン、マスターリングや、サウンドエフェクト等の良否が、コンダクター、プロデューサー、エンジニア達の仕事の生命にかかわるからであり、そこには、妥協などみじんも許されません。

特に録音した内容と質をできうる限り、正確にチェックする必要からモニタースピーカーには相当なウェイトがおかれます。

当然、その選定条件も、よりシビアなものになっているのです。

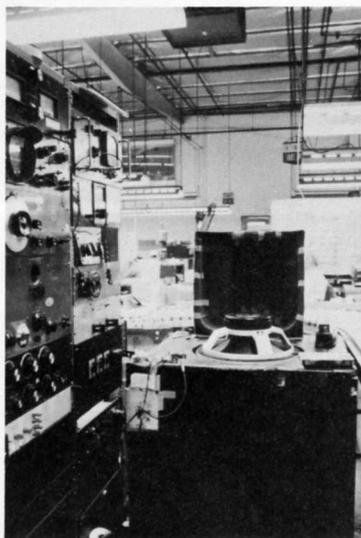
実際に、有名なレコーディングスタジオのほとんどとって良い程、多数のALTECモニターシステムが採用されている事実は、ALTECスピーカーが、音楽を極めてよく認識して作られており、音楽という素材をリアリズムをもって再現できる卓抜の能力を備えていることを実証するうえで、これほど適切な証拠は他にないでしょう。

更にALTECでは、プロフェッショナルの分野での得がたい経験と伝統を、ホームユースのHiFiステレオシステムや、コンポーネントの分野にも幅広く応用し、画期的な製品を世に送り出しています。

それらは、他メーカーと異なる、飽くまでプロ製品を基盤とし、アマチュア指向にティチューンしたモデルがほとんどであり、ホームステレオから作り初めたメーカーとの本質的な製品の違いや風格が感じられます。

最新のALTECシステム開発計画では、スタジオエンジニアの正確な耳での貴重なアドヴァイスから生れたALTEC本来の優れたクオリティとパフォーマンスはそのまゝに、家庭でのリスニングスペースやルームアコースティックの条件に理想的にマッチする新製品が、続々と登場しております。中高音ドライバーに採用され、比類の無い自然で透明な音色で、評論家諸氏を驚嘆させた新シリーズダイアフラムや、小型システムでは“ベルエア”“新ブックシェルフシリーズ”などがそれであり、小型システムとはいえ、高能率、高品位のALTECサウンドキャラクターは、大型システムのそれと、全く違っておりません。

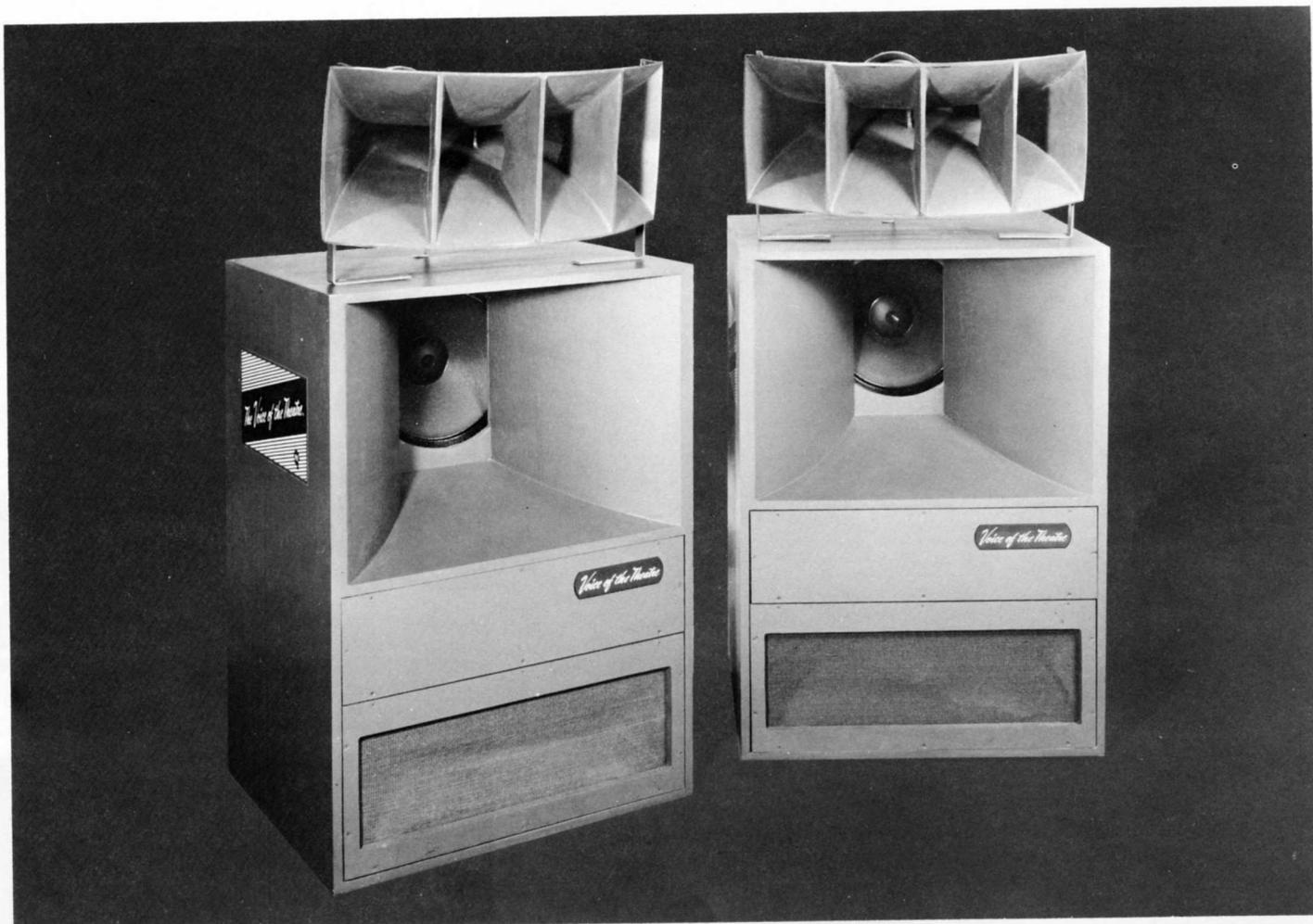
その辺に、ALTECスピーカーシステムの、物理特性だけでは測り知れない数々の魅力が隠されているともいえるそうです。



カリフォルニアンスカイに象徴される、ぬけるような碧空の下、木々の緑がまぶしいリゾートエリア、ロスアンゼルス郊外アナハイム。そこに近代的な本社、工場が建ち並ぶALTECランシング社があります。年平均湿度20%、澄み切った大気の中で生み出されるスピーカーシステム群。周囲環境に音は支配されるともいいます。ALTECのクラフツマン達は、こんな素晴らしい環境にめぐまれたからこそ、あの奔放で明快、しかも鮮鋭かつ緻密な感覚のALTECサウンドを培み育てることができたのだ、といえるかも知れません。

更にALTEC社自身の、クラフツマン達へのゆとりある配慮と厳格なサウンドポリシー、加えてより良い音を飽くことなく追求する熱情と理念があったからこそ、珠玉ともいえる数々の製品が生れてたのです。ALTECスピーカーのプレゼンスは、リアリスティックな音場創造が得意です。あの、ハリウッドボールでの、星空の下のコンサートの聴衆のざわめきが……。そして、紫煙と人々の熱気でむせかえるニューオールリンズのジャズクラブのステージサイドでのあの興奮が、あなたの脳裏にいま展開されることでしょう。





Voice of the Theatre Series

A5 System

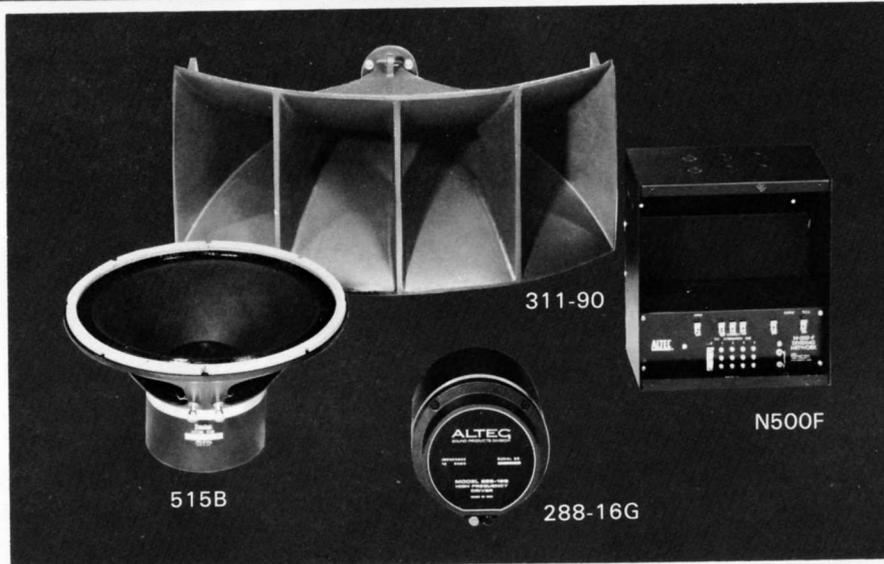
無骨ともいえそうなエンクロージャーには、ウェスタン 825 を原型とする50年に及ぶ音響工学の粋が、板材一つ、ボルト一本まで生きづき、完成されたもののみがもつ、独特の威風が感じられます。

あらゆる音楽ソースを迫真のプレゼンスで再現する能力は、もはやスピーカーを意識させない生々しい現実音であり、まさに眼前のアーティストの演奏です。

使用ユニットはすべて最高級の組合せて、大型高性能ドライバー 288-16Gを、311-90又は311-60セクトラルホーンに装着、音響条件に合せ、拡散角度が選べます。

ウーファーには、38cm口径の強力型 515 Bが採用され、バルシヴな低音楽器の過渡応答の良さは驚嘆に値するものがあり、特にティンパニーのアタックなどは、皮の振動が生そのままに再現されます。

A 5 は、現在考えうるプロユーススピーカーシステムの最高峰といえましょう。



再生周波数帯域	30~16kHz
許容入力(連続プログラム)	75W
インピーダンス	16Ω
音圧レベル(新JIS)	106dB
クロスオーバー周波数	500Hz
外形寸法(H×W×Dmm)	1470×762×612
重量	75.6kg

ユニット構成=288-16G/311-90
/515B/N500F/828B



A7 System

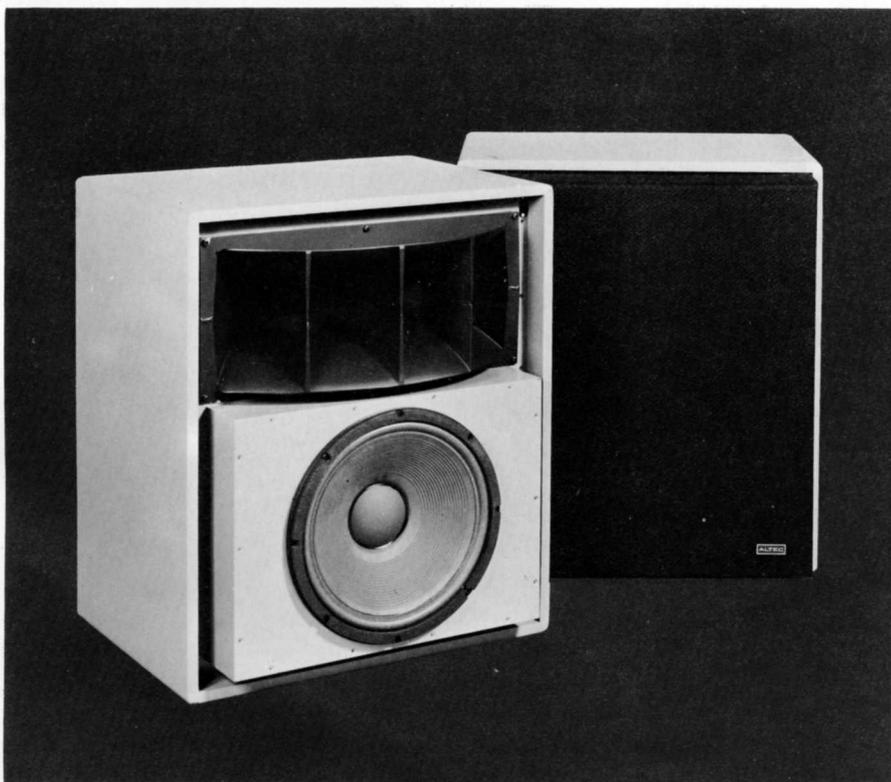
“ヴォイス・オブ・ザ・シアター”の名を冠した、プロ用スピーカーシステムの文字通り世界の標準機として、70%映写設備をもつ大劇場のスクリーン裏、ステージサイドに活躍しているほか、枚挙の遑がないほどの使用実績は、その高性能とスタビリティの優秀性を実証しているALTECを代表するモデルです。特異な形状のエンクロージャーは、低音放射効率が抜群のフロントロードホーンと位相反転を併用した構造で、驚異的な高能率を誇ります。あらゆるプログラムソースを、らくらくとこなす余裕があり、再生音は、まさにドラマティックそのものです。

再生周波数帯域	45~20kHz
許容入力(連続プログラム)	50W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	104dB
クロスオーバー周波数	500Hz/800Hz
外形寸法(H×W×Dmm)	1327×762×612
重量(A7-500-8/A7-8)	64.5kg/61.36kg

ユニット構成

A7-500-8=802-8D/511B/416-8B
/N501-8A/828B

A7-8=806-8A/811B/416-8B/N801-8A
/828B



Studio Monitor

9846-8A

ワイドレンジ、秀逸なトランジェント特性が決め手の、新しいタイプのモニタースピーカーシステムです。

クロスオーバーを500Hzと低くとった511Bホーンに、強力型ドライバー802-8Dが組合され、低域のハーモニクス成分を含む帯域を本格的ホーンが受け持つため、再生音のハジレの良さ、分解能の良さは群を抜いています。更に、ローエンドの限界を下へ延ばすダイナミックフォース・ウーファー411-8Aの力感溢れる低音と相まって、このシステムを、プロのエンジニアの苛酷な要求にも、充分ご満足頂けるハイグレードなものとしています。

再生周波数帯域	25~20kHz
許容入力(連続プログラム)	50W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	97dB
クロスオーバー周波数	500Hz
外形寸法(H×W×Dmm)	787×673×603
重量	47.5kg

ユニット構成=802-8D/511B/411-8A/N501-8A

620A Monitor

名作の誉れ高く、プロモニターとしてこれ以上の理想的形体は、望めないと言われた 604 シリーズ。その頂点に立つ最新のモデルが、604-8G であり、独特の同軸複合構造により低音域と中高音域の音像が同一点で合成される最大のメリットはそのまゝに、更に振動系の軽量化により、中高音域のトランジェント特性とリアリティが格段に向上しています。新設計の大容積 620 A モニターエンクロージャーとのマッチングにより、ユニットの優れた特質をフルに引出すのは勿論、特にローエンドの延長を計るのに、その効果が発揮されております。

再生周波数帯域	20~22kHz
許容入力(連続プログラム)	45W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	103dB
クロスオーバー周波数	1.5kHz
外形寸法(H×W×Dmm)	1016×660×457
重量	62.6kg

ユニット構成=604-8G/620A

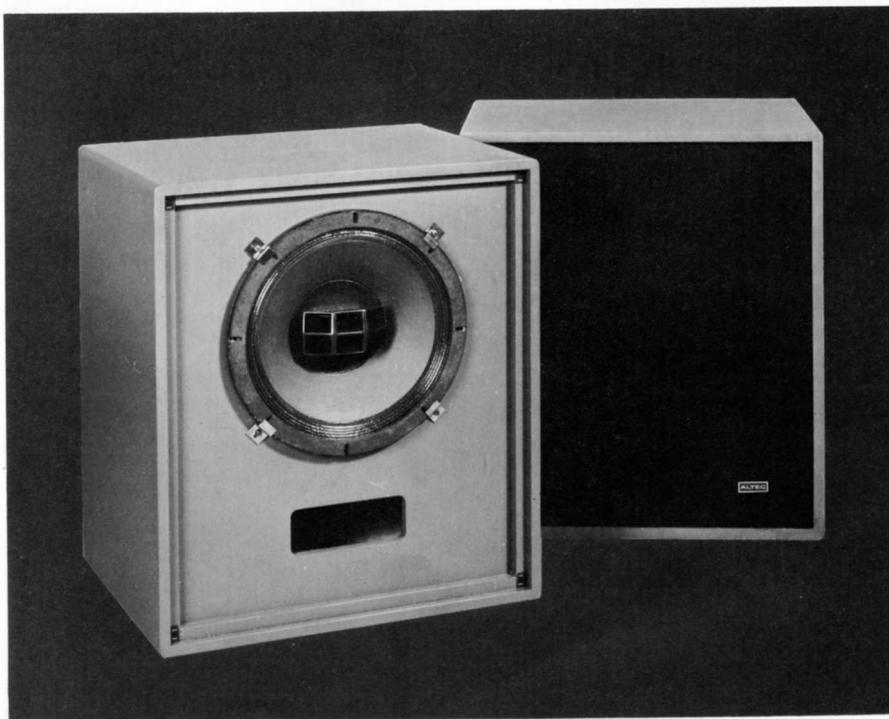


612C Monitor

ALTEC モニターの基幹を成すシステムでプロ業界で多くの使用実績を誇った 612 A システムを、リファインさせて登場したこのシステムは、正確なバスレフレックスのポートチューニングにより、ローエンドの再生限界を更に下へと延ばすことに成功しています。据付面積が極小のため、スタジオのコントロールルームの壁面にも、家庭内での小さな部屋での大口径スピーカーシステムの使用にも最適です。

再生周波数帯域	20~20kHz
許容入力(連続プログラム)	40W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	104dB
クロスオーバー周波数	1.5kHz
外形寸法(H×W×Dmm)	749×648×508
重量	53.0kg

ユニット構成=604-8G/612C



Hi-Fi Speaker FloorStanding

873A BARCELONA

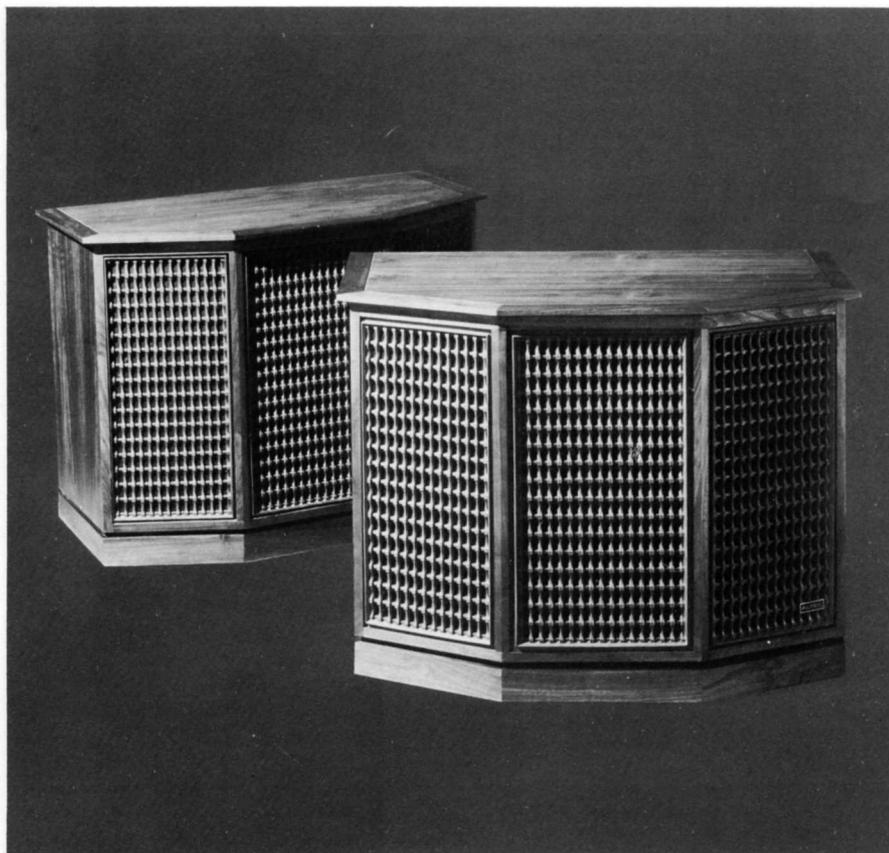
吟味され、長年自然乾燥した高級板材を基にALTEC木工技術の粋を集め、木目の美しさが生かされたゴージャスな雰囲気のパルセロナは、あなたのインテリアコーディネートプランを完璧に演出してくれます。

内装ユニットは特に、ダイナミックフォースウーファーと、511Bホーンに802-8Dドライバーを組合せ、力感のある低音域と張りのある明快な中高音域を両立させております。

充実感の伴った素晴らしい音質は、パルセロナならではのものです。

再生周波数帯域	30~20kHz
許容入力(連続プログラム)	60W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	96dB
クロスオーバー周波数	500Hz
外形寸法(H×W×Dmm)	759×978×635
重量	67.6kg

ユニット構成=802-8D/511B/411-8A
/N501-8A

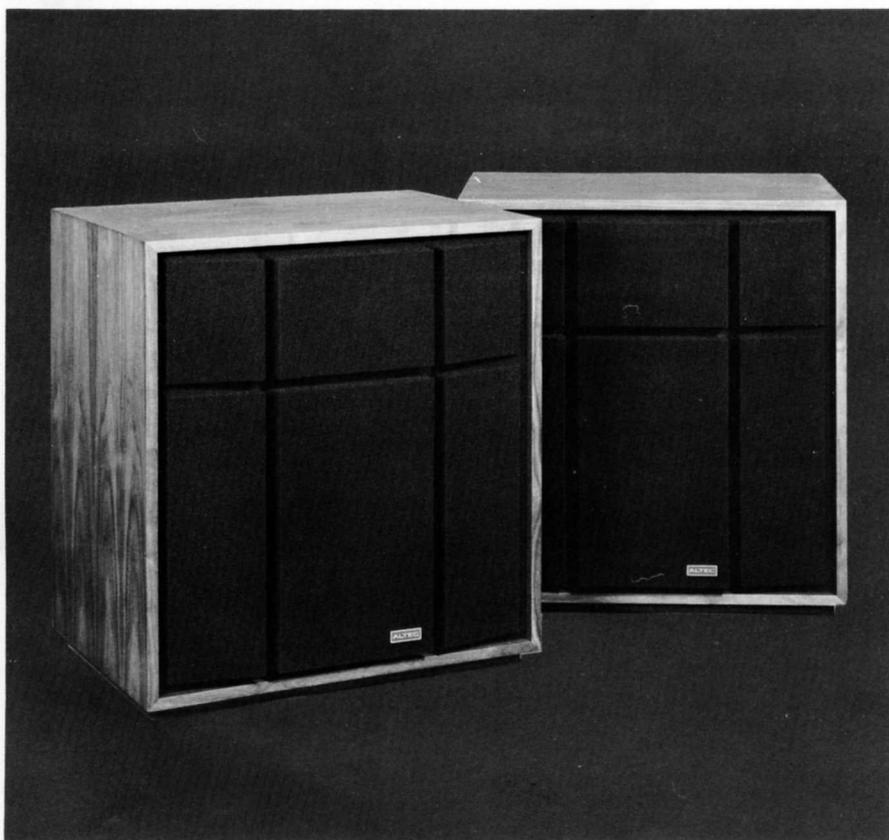


846B VALENCIA

大担でいて彫りの深いスリットをフロントグリルのモチーフとした新型ヴァレンシアは、ALTECの傑作ユニットの中でも定評のある“ヴォイス・オブ・ザ・シアター”A7-8に採用のものと、同一のコンポーネントで構成されています。特に、中音域から可聴帯域の限界まで直線的な音の伸びを見せる811Bホーンと、806-8Aドライバー、更に小容積のエンクロージャーでも、豊麗で切れ味よい低音を再生する416-8Bのコンビネーションは、音楽の聴かせどころを適確にとらえるずばぬけた能力を備え、微妙な楽器のニュアンスも余すところなく再現します。

再生周波数帯域	40~20kHz
許容入力(連続プログラム)	50W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	100dB
クロスオーバー周波数	800Hz
外形寸法(H×W×Dmm)	752×673×514
重量	44.9kg

ユニット構成=806-8A/811B/416-8B
/N801-8A

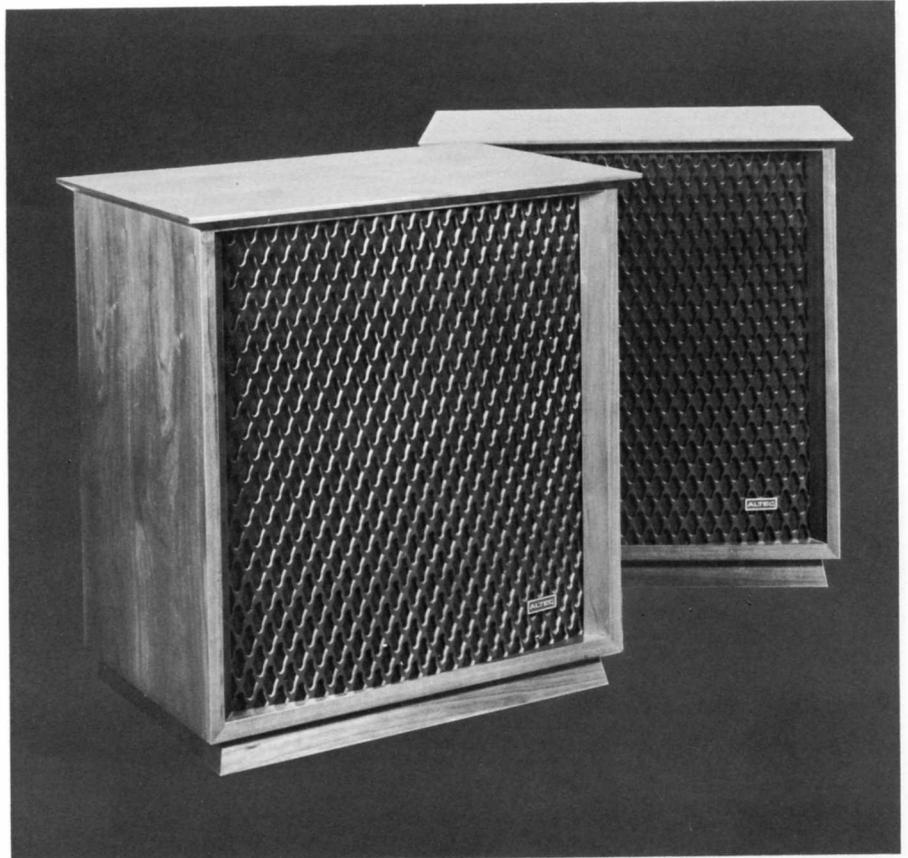


846E VALENCIA

スペイン文明華やかなりし頃の、地中海沿岸ヴァレンシア地方に実在する16世紀の化粧タイルの模様を、組格子に取入れたこのシステムは、ゴージャスなインテリア家具調のデザインで、落ち着きと気品を兼ね備えています。内に秘められたALTEC高性能ユニットは既に定評のある811Bホーンと806-8Aドライバーを使用した本格的2ウェイシステム。格調の高さと高性能が両立した、家庭用HiFiシステムのベストセラー製品です。

再生周波数帯域	40~20kHz
許容入力(連続プログラム)	50W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	100dB
クロスオーバー周波数	800Hz
外形寸法(H×W×Dmm)	766×700×480
重量	43.0kg

ユニット構成=806-8A/811B/416-8B
/N801-8A



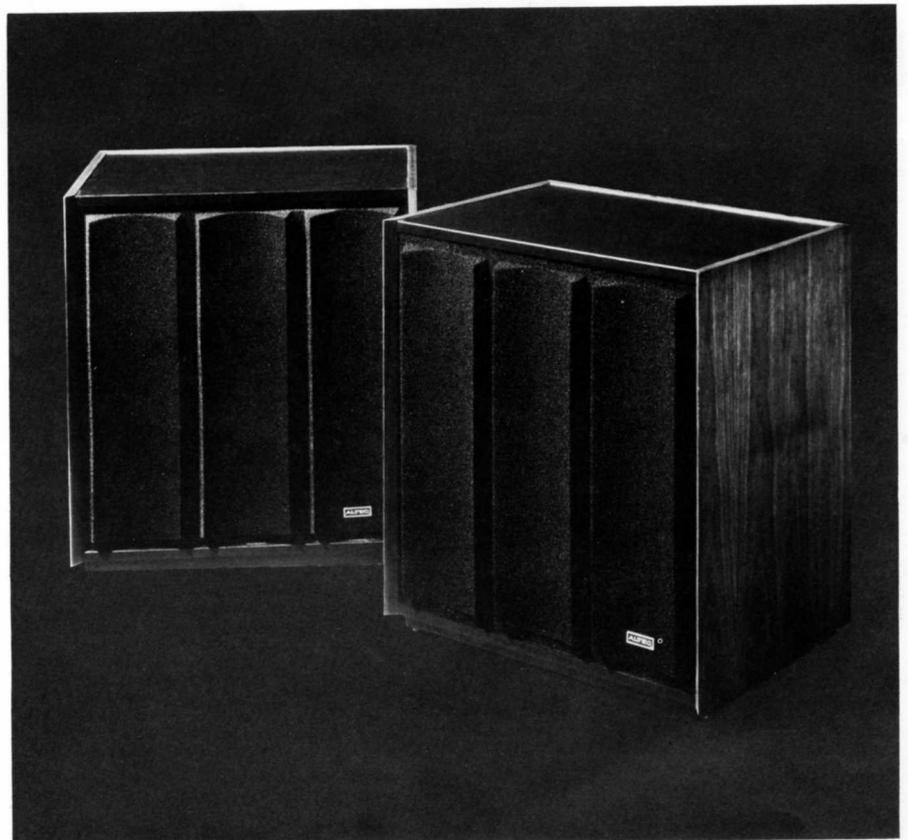
878B SANTIAGO

ブラックを基調とした、インテリアアートの一作品を思わせる、彫りの深いメッシュのグリルが特徴のサンチャゴは、ALTECの優れたデザイン感覚と、音響技術の粋が結集されたスピーカーシステムです。

ユニットは、A7で優秀性を実証済みの811Bホーンに806-8Aドライバーを適合させ、ダイナミックフォースウーファー411-8Aとの本格的2ウェイシステム。スケール感のある、明るく冴えた音質は、アーティストの心の表現まで刻明にとらえます。

再生周波数帯域	35~20kHz
許容入力(連続プログラム)	60W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	96dB
クロスオーバー周波数	800Hz
外形寸法(H×W×Dmm)	765×676×495
重量	49.9kg

ユニット構成=806-8A/811B/411-8A
/N801-8A





879A SANTANA

モダンなインテリアをコーディネートする、現代感覚にふさわしいシステム、サンタナ。天然スレート 模様 の黒のトッププレートがユニークでフレッシュな魅力です。

木目の美しさを強調するエンクロージャーはリアパネルを含む5面仕上げ。スピーカーはお部屋の片隅へ……という先入観を破った斬新なデザインで、どんな場所へもほど良く調和させることが可能です。

ユニットは、よりナチュラルな音質を求めたALTECの代表製品420Aと専用ダイレクト・ラジエーターが受け持ち、クリアでバランスのとれた全帯域が、大きな魅力です。

再生周波数帯域	40~20kHz
許容入力(連続プログラム)	45W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	98dB
クロスオーバー周波数	3.5kHz
外形寸法(H×W×Dmm)	661×508×431
重量	23.6kg

ユニット構成=420A

／ダイレクト・ラジエーティングツイーター



Mini Monitor

BELAIR mini Monitor

「音楽の再現」という目標に、もてる総力が集中され、完成された“ベルエア”は、ALTECの永い歴史の上に立つ技術基盤の裏付けと、たゆまぬリサーチ精神とが初めて可能とした画期的製品であり、その品位の高いサウンドキャラクターと、卓抜な性能は群を抜いています。流麗でモダンなデザインの、レッドオーク仕上げのエンクロージャーは、硬質パーティクルボードのチューニングダクト方式、30cm口径の411-8Aタイプウーファーによる、極めて張りのある明快な低音域と、5cm径ダイレクト・ラジエーターの冴え渡る高音域は、音楽のハーモニクスを忠実に再現し、音楽全体を生き生きと甦らせます。

一度は、手にしてみたいシステムです。

再生周波数帯域	35~20kHz
許容入力(連続プログラム)	40W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	94dB
クロスオーバー周波数	1.5kHz
外形寸法(H×W×Dmm)	648×368×372
重量	20kg

ユニット構成=411-8Aタイプウーファー

／427-8A/N1501-8A



Hi-Fi Speaker Floor Standing

STONEHENGE II

“ストーンヘンジ、”いまだに謎に包まれた前世紀の科学文明を象徴する古代遺跡にちなんで命名されたこのシステムには、ALTECの伝統に基いたテクノロジー、クラフトマンシップが結集され、今日のHi-Fiスピーカーシステムの在り方を追求したALTECの完璧な答が示されています。

ユニットは30cm口径ウーファーをベースとしたALTECシステムでは異色の3ウェイ構成で、13cmのミッドレンジ12cmのフレーム径ダイレクトトウィーターが本格的なネットワークにより、それぞれ500Hz、5kHzクロスオーバーで組合わされています。再生音は、抜けがよく、めりはりのある中高音域と、豊かで適度にダンブされた低音域を合せもち、帯域間のつながりもごくスムーズです。

再生周波数帯域	35~20kHz
許容入力(連続プログラム)	50W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	89dB
クロスオーバー周波数	500Hz/5kHz
外形寸法(H×W×Dmm)	953×406×362
重量	27.7kg



ユニット構成=30cmウーファー/フレーム径13cmスクーカー/フレーム径12cmコーンツイーター

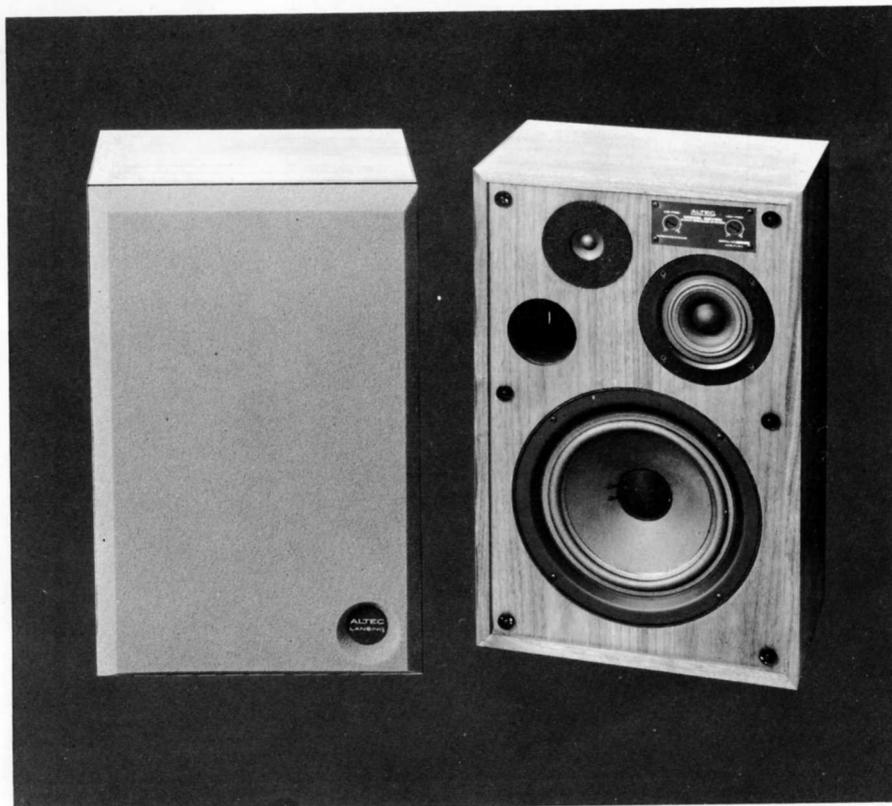
Hi-Fi Speaker Bookshelf Type

Model SEVEN

フレッシュなデザイン感覚が一段と映える、ALTECニューライン・スピーカーシステムで、ALTECの豊かな経験と、技術力の結晶とも云うべき、磨き抜かれたシステムです。内装ユニットは、30cm口径のリニアリティの優れたウーファーをベースに、強化マグネットの15cmミッドレンジ、フレーム径12cmのダイレクトラジエーターの構成でALTEC初の3ウェイにより、ナチュラルな音質とワイドレンジ特性が際立つ、魅力あるシステムです。

再生周波数帯域	45~20kHz
許容入力(連続プログラム)	50W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	93dB
クロスオーバー周波数	850Hz/8kHz
外形寸法(H×W×Dmm)	635×406×359
重量	20kg

ユニット構成=30cmウーファー/フレーム径16cmスクーカー
/フレーム径10cmコーンツイーター





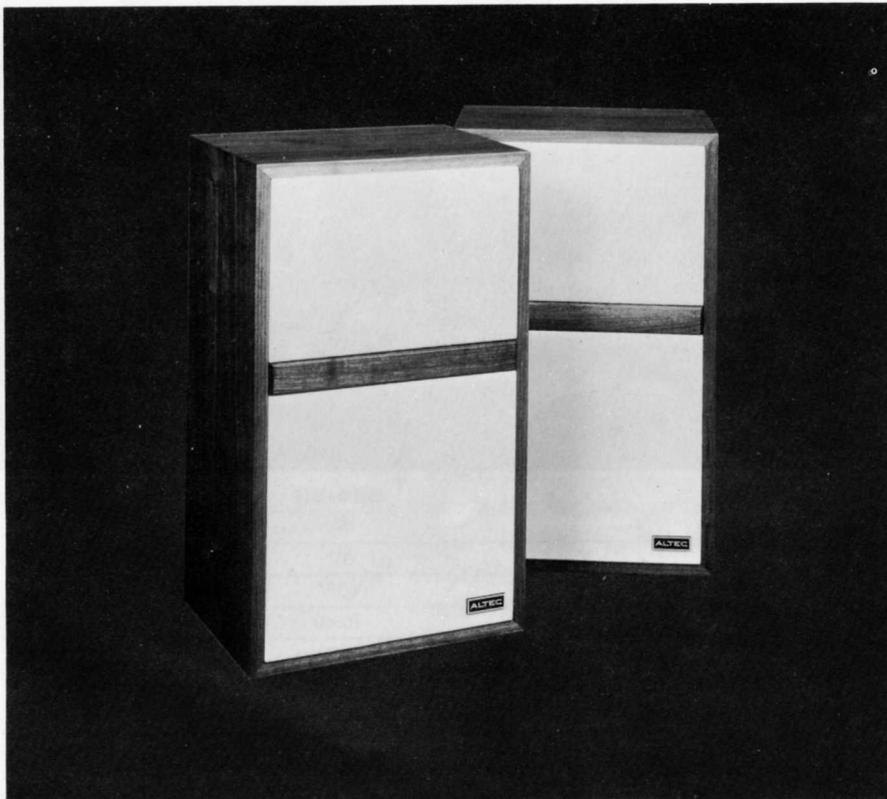
Model **NINE**

現代センス溢れるALTECニューラインシリーズ。シリーズ中の最大のモデルがこのモデル・9システムで、先のモデル7と同じく3ウェイのユニット構成であり、ALTEC社の最新の音ともいふべき豊かでダンピングの効いた低音域と、ハイエンドの伸びきったシャープで明快な音色が特徴です。

キャビネット材質は、ハンドメイドで仕上げられたオークのオイルステイン、グリルは彫りが深く立体成形されたニットファブリックにシックなブラウンが印象的です。

再生周波数帯域	40~20kHz
許容入力(連続プログラム)	60W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	96dB
クロスオーバー周波数	800Hz/7kHz
外形寸法(H×W×Dmm)	673×445×381
重量	25.4kg

ユニット構成=30cmウーファー/フレーム径16cmスコーカー
/フレーム径12cmコーンツイーター



DIG MK II

最も小型ながら、強烈なアメリカンベッパの如く、ジャズ、ポピュラー系の音楽ソースを任せたら、素晴らしいリアリティと迫力を伴った再生音で聴く人すべてを圧倒するディグは、ALTECの人気製品です。

この価格ランクで、まったく信じ難いパフォーマンスを生み出す秘密は、ALTECの特殊ディフューザー付同軸複合ユニット。

特に高域指向性の均一化と、低域のハギレの良さを狙った傑作ユニットです。

再生周波数帯域	50~14kHz
許容入力(連続プログラム)	16W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル(新JIS)	100dB
クロスオーバー周波数	2kHz
外形寸法(H×W×Dmm)	642×372×286
重量	18kg

ユニット構成=409B

空気を媒体とし、音を正確に人間の耳に到達させねばならないトランスデューサー部門、スピーカーシステムは、音響機器のなかでも技術的に品質管理が難しいとされています。

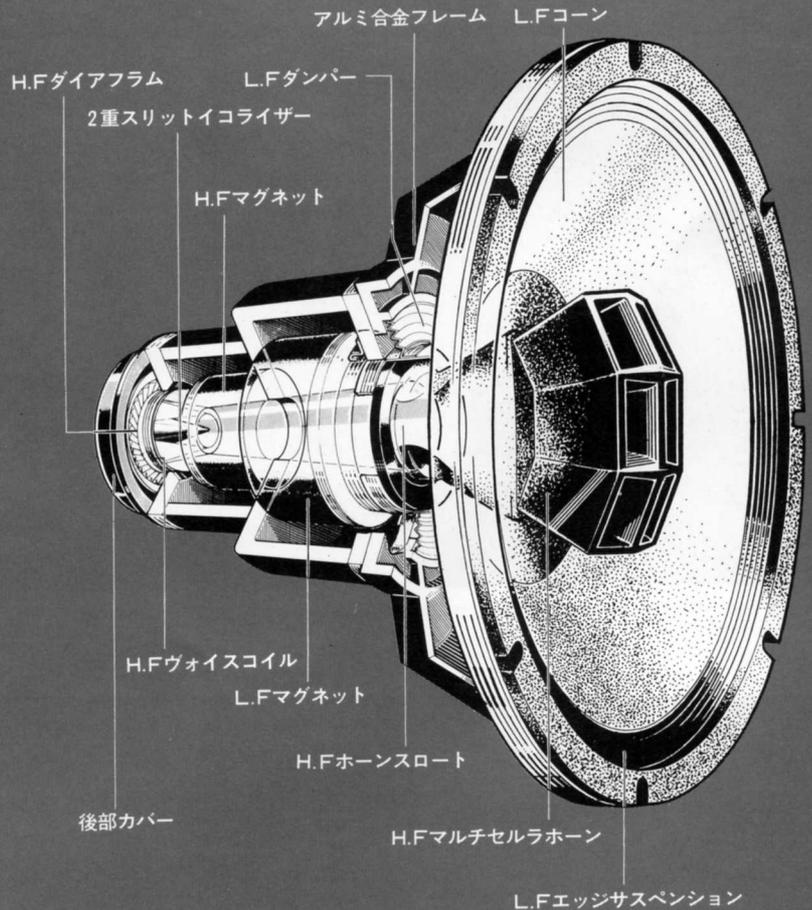
ALTECでは、その高品質を維持するため永年積み重ねられた経験から、近代的なアッセンブルラインを駆使すると同時に、重要なポイントとなるべき箇所は、相変わらずハンドメイドで丹念かつ慎重に組み上げられています。これもすべて、世界に誇れるALTECサウンドとしての製品のグレードを維持し、しかも、より良い音をつねに追求する姿勢を崩さないためであり、それには能率向上とはうらはらなプロセスも、やっつけてのけます。

例えば、振動板のヴォイスコイルには、熟練した技術者でのみ可能なエッジワイス巻きを採用、更に10年、20年先までの耐久力を重んじ、経年変化に対処する含浸処理も行っているのです。

スピーカーフレームに、肉厚なアルミダイキャストも、セラーホーンに音質重視の完璧なデッドニングも、考えようによってはおごり過ぎかも知れません。

しかしそれが、良いと確信したことは断固として守るALTECクラフツマンシップのイデオロギーであり、世界で最も優れたプロフェッショナルサウンドシステムを可能としたエネルギー源ともいえそうです。

604-8G Super Duplex Speaker



	604-8G	605B	601-8D
口径	38cm	38cm	30cm
インピーダンス	8Ω	8Ω/16Ω	8Ω
許容入力	40W	35W	20W
音圧レベル(新JIS)	103dB	102dB	98dB
再生周波数帯域	20~22kHz	20~20kHz	30~20kHz
最低共振周波数	30Hz	25Hz	39Hz
ボイスコイル径(低域/高域)	75mm/45mm	75mm/45mm	75mm/19mm
クロスオーバー周波数	1.5kHz	1.6kHz	3kHz
重量	15.4kg	12.5kg	6.8kg





Duplex Speakers

604-8G <38cm口径>

ALTECスピーカーユニットをご紹介する際に、何はさておいても、筆頭にくるべき偉大なる傑作スピーカー、それが604シリーズの最先端をゆくモデル604-8Gであることに異論をはさむ人はないでしょう。

歴史を遡ること1944年、パーマネントマグネットを初めて採用した604Aが誕生した当時の音響界は、高性能なホーン形中高音ドライバーを同軸にマウントした、この精巧で緻密そのもののスピーカーを、ただ驚嘆の眼ざしてみつめたものでした。以来、今日まで604が果たしたプロ業界での実績と、影響力には計り知れないものがあり、一例として、この604を模した同軸複合スピーカーが、一時期に数多く表われましたが、そのどれもが外観だけの安易なコピーに終り、その巧妙な内部構造までを範としたのはわずか英国製のモニタースピーカー他、一、二例を数えたにすぎません。

604のモニタースピーカーとしての理想的完成度の高さは、この同軸複合構造から生ずる中高音と低音の音源が、同一点で合成されるため音像の一体感があり、楽器の定位、編成、距離感が手にとる如く、判り易く、それがひいては音楽のかたち、更に本質までを正確にとらえるための必然的構造であるとさえ云えます。

604の構造的メリットは、そのままに新技術の導入により、更に物理特性と音質の向上が計られたのが、新登場の、604-8Gであり、まさに現在のプロモニターの頂点に立つスピーカーとして、業界の注目の的となっています。最大の改良点としては、ダイアフラムの振動マスの軽量化を計ったことで、その結果、過渡応答特性が数段向上し、同時にダイナミックマージンに対するリニアリティも向上しています。

605B <38cm口径>

一世を風靡した604Eモニターとほぼ同時期に作られたモニタースピーカーで、同形体、同一構造のユニットですが、ツイーターの使用マグネットが若干異なります。最近、とみに見直されているユニットで、家庭用システムとして、適度にマイルドな音質とじっくり聴き込める雰囲気を持ち、しかも伝統的モニターの味を損わないキャラクターを維持すると評判のスピーカーユニットです。

601-8D <30cm口径>

歴史のあるユニットの音色には、どこか共通点があるのかも知れません。この601-8Dの原器も1943年に初めて登場しています。

こんなスピーカーの音を聴いていると、何故かホットして、くつろいで音楽を聴く、気分がひたれるのは、このカタログ文を書いている本人だけの一人よがりでしょうか……!?

Low Frequency Speakers

ALTECのウーファーは、空気のバネ効果と粘性を充分考慮した上で、それぞれの目的に応じ厳格な設計が成されています。すべてのウーファーは、経年変化(20~30年先)に対処するため特殊な含浸処理が施されています。更にバルシヴな低音の立上りにもコーンが追従できるよう、特殊な繊維質を織り込んでプレスされており、豪壮でいて切れ味のよい低音は、ALTECならではのものと云えましょう。

515B<38cm口径>

強力にコーンを駆動するための、アルニコV型の巨大なマグネットをもち、特に低音ホーンとの組合せにより最大の威力を発揮します。

411-8A<38cm口径>

ロングストローク、大入力形のウーファーで、10cm径の大形ヴォイスコイルと、磁気回路重量 8.2 kg という強大な駆動力が特徴です。

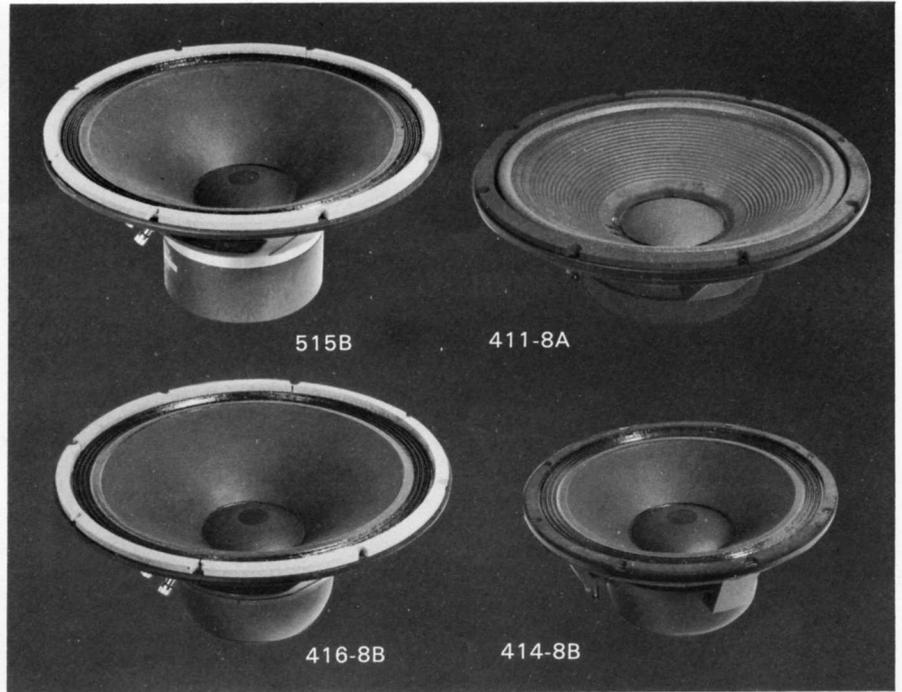
低歪率の超低音再生が可能で、容積の大きなエンクロージャーであれば、16Hz再生も夢ではありません。

416-8B<38cm口径>

多くのALTECシステムの基幹を成す、高能率形の38cm口径ウーファーで、ダイナミックマージンも絶大であり、迫力とスケール感豊かな低音を再現します。

414-8B<30cm口径>

30cm口径の大入力形ウーファーで、比較的小形のエンクロージャーでも、ローエンドの伸び切った雄大な低音再生が可能です。



	515B	411-8A	416-8B	414-8B
口径	38cm	38cm	38cm	30cm
インピーダンス	16Ω	8Ω	8Ω	8Ω
許容入力	35W	60W	30W	30W
音圧レベル(新JIS)	105dB	96dB	102dB	98dB
再生周波数帯域	20~1kHz	20~1kHz	20~1.6kHz	30~4kHz
最低共振周波数	25Hz	18Hz	25Hz	30Hz
ボイスコイル径	75mm	100mm	75mm	75mm
重量	11.8kg	9.3kg	7.9kg	6.8kg

High Frequency Drivers

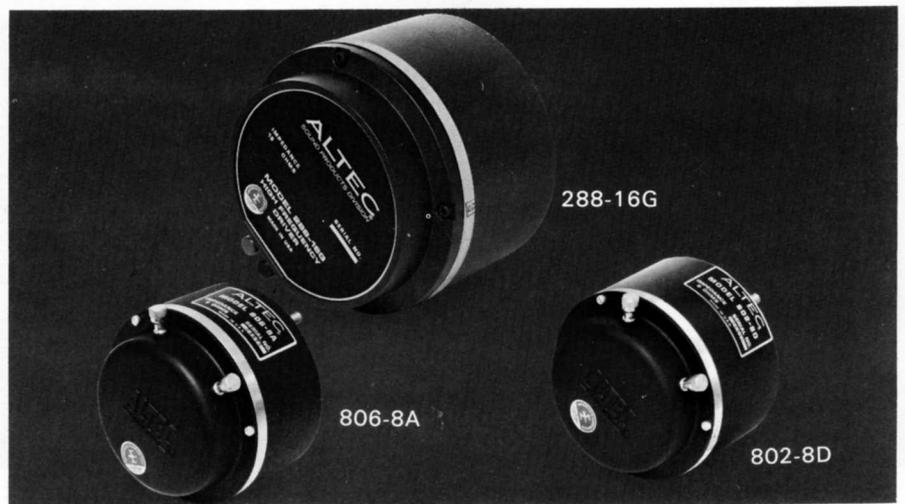
ALTECランシングの名を世界に広めさせたのは、何よりも精密で巧妙な内部構造をもった、優秀なドライバーユニットを作り出した高度の技術力が存在したことです。中でも傑作の誉れ高い806,802シリーズなど、いつの時代でも本当に良いものは、オー級品として通用するという事実を完璧に立証する一例です。

288-16G<ワイドレンジ・ドライバー>

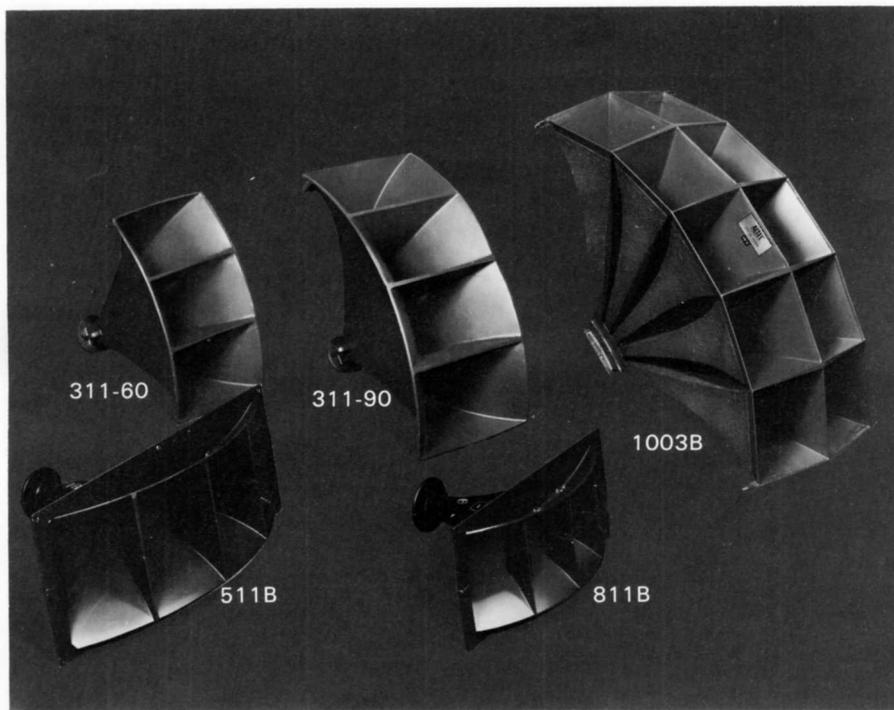
大音響出力用の驚異的クリッピングマージンと、リニアリティが特徴の大型ドライバーで、最近ダイアフラムが改良され、再生音がより細やかさを加え緻密になりました。

802-8D / 806-8A<ワイドレンジ・ドライバー>

500~20,000Hzまでの超広帯域を、一個のドライバーでカバーすることのできるALTECの最高傑作です。原音の持つイメージを余す所なく再現できる余裕は、まさにALTECドライバーの独断場です。



	288-16G	802-8D	806-8A
スロート径	36mm	25mm	25mm
インピーダンス	16Ω	8Ω	8Ω
許容入力	40W	30W	30W
音圧レベル(新JIS)	112dB	110dB	108dB
再生周波数帯域	300~15kHz	500~20kHz	500~20kHz
適正クロスオーバー	500Hz	500Hz	800Hz
ボイスコイル径	71mm	45mm	45mm
重量	13.3kg	3.2kg	2.6kg



	811B	511B	311-60	311-90	1003B
指向性(水平/垂直)	90°/40°	90°/40°	60°/40°	90°/40°	90°/35°
クロスオーバー周波数	800Hz	500Hz	300Hz	300Hz	300Hz
スロート径	25mm	25mm	36mm	36mm	36mm
外形寸法(H×W×Dmm)	220×470×340	270×600×480	267×510×535	326×725×420	409×965×648
重量	4kg	8kg	8.8kg	13kg	14.5kg

High Frequency Horns

ステレオ効果を重視する家庭でのリスニングスペース、或は広い音圧分布特性が要求される劇場、ホールなど、目的、場所に合致した指向性と、帯域をもったホーンが要求されます。ALTECホーンは、多機種のバリエーションの中から、必要とする再生音場に適確にマッチしたホーンが、お選び頂けます。

1003B<マルチセラー・ホーン>

劇場、ホールなどの大音響出力用に設計されたホーンで、各種各様のモデルがあります。必要とする音圧分布状態での音圧レベルを基準に選び出すことができ、スロート交換のみでドライバーのバラレル駆動から4本駆動まで可能です。

311-60/90<セクトラル・ホーン>

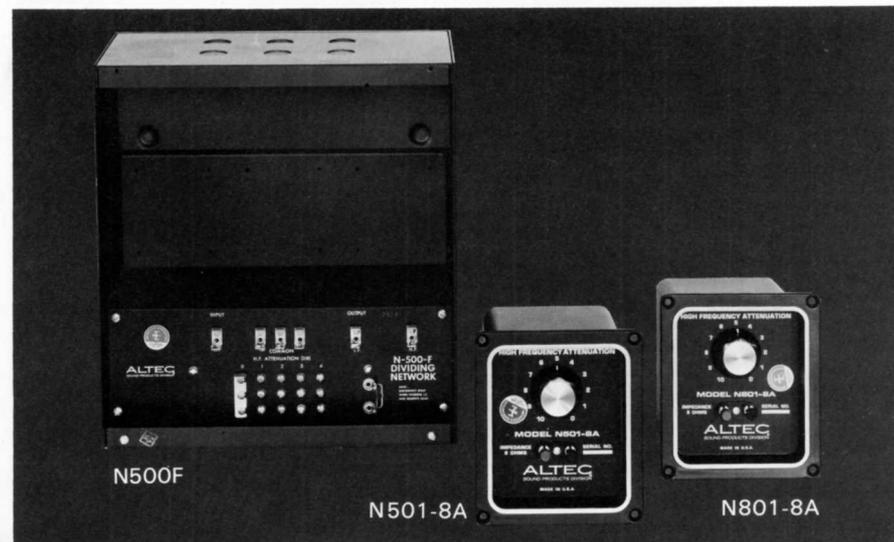
大型セクトラルホーンで、288-16Gドライバーと直結することができます。ホールでの使用は勿論のこと、家庭での最高級HiFi再生にも、その真価を遺憾なく発揮します。

511B<セクトラル・ホーン>

今やALTECのイメージそのものとも云える程有名になった、ALTECを代表するアルミダイキャスト溶接構造のホーンで、500 Hz以上から可聴周波数帯域上限までを、歪なく放射させます。

811B<セクトラル・ホーン>

上記511Bをやゝ小形にしたアルミダイキャスト製ホーンで、800 Hzから可聴周波数上限までの帯域を効率よく放射させます。



	N500F	N501-8A	N801-8A
クロスオーバー周波数	500Hz	500Hz	800Hz
許容入力	250W	100W	100W
インピーダンス	16Ω	8Ω	8Ω
アッテネーター	0-1-2-3-4dBステップ	1~20dB連続可変	1~20dB連続可変
外形寸法(H×W×Dmm)	305×280×137	140×122×143	140×122×143
重量	8.2kg	1.6kg	1.6kg

Dividing Networks

マルチウェイのスピーカーシステムを組み上げる場合、ネットワークはその成否を左右する重要なファクターとなります。ALTECのネットワークは、クロスオーバーのつなぎ目附近の位相合せに徹底した配慮が成され、特性上の暴れを生ずることなく、非常にスムーズなレスポンスが得られます。更に、直流抵抗分を少く設計できる、コア入の巻線を採用、精密級のアッテネーターと共に、理想的な特性を保持しています。

N500F

大入力形(250W)のコアボユームの大きな太い巻線を使用した2セクションのLC形で、高域減衰アッテネーターは、端子の結線変更で行うプロフェッショナル仕様です。

N501-8A

511Bホーンに適合するよう設計された2セクションのLC形で、パネル面には20dB減衰可能なアッテネーターが組込まれています。

N801-8A

811Bホーン専用のもので、同じく精密級2セクションのLC形であり、20dB減衰可能なアッテネーターを内蔵しています。

Full Range Speakers

A L T E Cの全域用スピーカーは、一本でよく全周波数帯域をカバーし、落ち着いた音楽を聴き込めるある種の雰囲気と素直な音色を持ち、世界中の音楽ファンに親しまれる要素を備えています。強力な磁気回路でドライブされる張りのあるコーンはA L T E C伝統のもの、豊かな中低音から、つややかな高音域までの広い帯域を忠実に再現します。

420A<38cm口径>

38cmの大口径でありながらフルレンジをカバーできるスピーカーで、特殊なりフレックスコーンと中心のメタルラジエーターにより、大型マルチウェイスピーカーに匹敵する再生音を、唯一のスピーカーで可能としています。

755E<20cm口径>

A L T E Cの小口径スピーカー中、最も有名で由緒あるのがこの通称“パンケーキ”755Eです。その薄型の愛らしい外観と、初期の755Aが誕生してから殆んど変わらない形体は、今だに一部の熱烈な愛好家に支持されている物理特性以外の何かをもつスピーカーです。

403A<20cm口径>

20cm口径のオーソドックスな標準スピーカーですが、A L T E Cのトーンキャラクターは十分引継いでおり、コストパフォーマンスはまさに最高のランクに位置します。

405A<10cm口径>

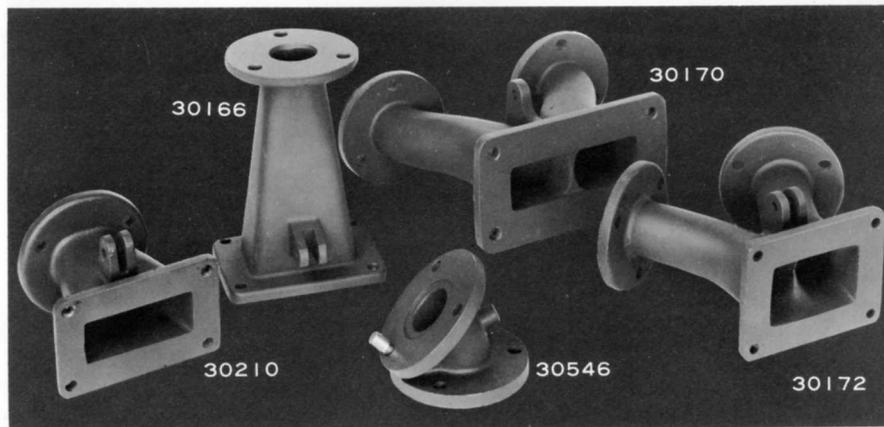
小口径のちょうど419-8Bのミニ版とも云えるようなユニットで、広帯域特性と品位の高い再生音が特徴です。最近流行のCWホーンのドライバーに、又、マルチウェイシステムのミッドレンジにも最適です。



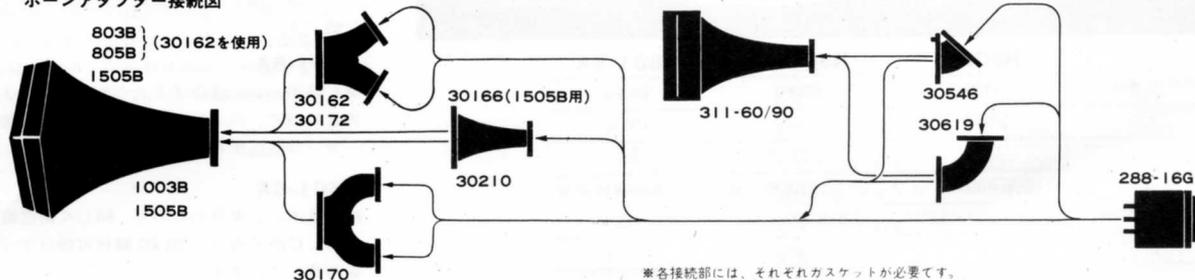
	420A	755E	403A	405A
口径	38cm	20cm	20cm	10cm
インピーダンス	8Ω	8Ω	8Ω	8Ω
許容入力	25W	20W	12W	10W
音圧レベル(新JIS)	100dB	95dB	102dB	95dB
再生周波数帯域	25~14kHz	40~15kHz	70~11kHz	60~15kHz
最低共振周波数	27Hz	64Hz	80Hz	70Hz
ボイスコイル径	75mm	50mm	25mm	25mm
重量	7.9kg	2.0kg	1.4kg	0.9kg

Horn Adaptors

ドライバーとホーンの重要な継手、スロート部の役割は、従来軽視されがちでしたが、何分にも圧力の高くなる部分だけに、音の洩れを防止するため高い工作精度が要求されます。A L T E Cのホーンスロートは、多種類のものが特にマルチセラーホーン使用のために用意されており、ドライバーの複数駆動時他、目的に応じ選択頂けます。屋外使用のための防水型スロート、パッキンも用意されています。



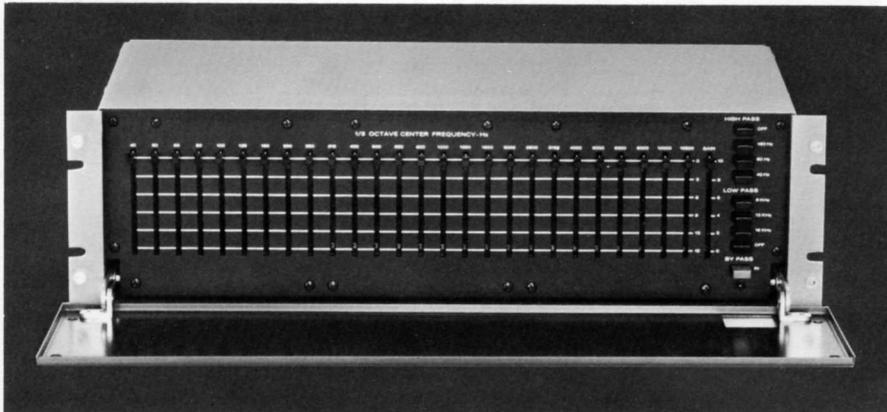
ホーンアダプター接続図



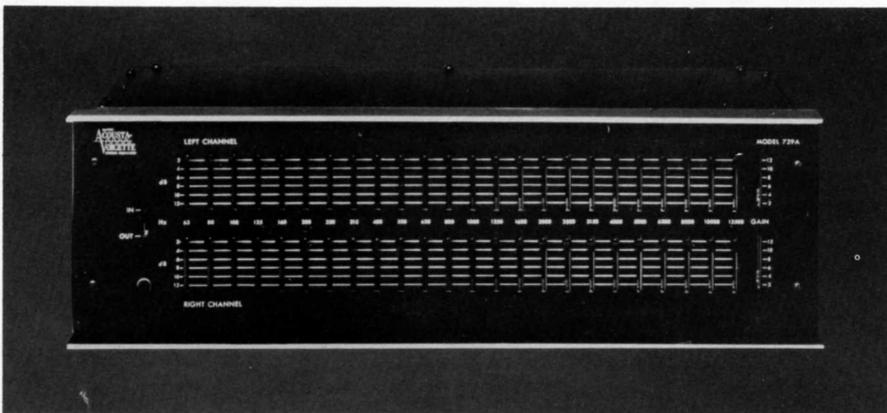
※各接続部には、それぞれガスケットが必要です。



9440A<ステレオ・ステート・パワー・アンプ>



9860A<アクースタ・ボイスイング>



729A<アクースタ・ボイスセット>

<9860A規格>型式=1/3オクターブバンド・26エレメント・アクティブフィルタ使用/周波数特性=20~20kHz(±1dB)/入力レベル=+18dBm(最大)/出力レベル=+15dBm/歪率=0.5%THD以下/ノイズレベル=-67dB以下/コントロール範囲=40~12.5kHzを1/3オクターブに分割、26個のスライドフィルタを各15dBまでコントロール可能/バイパス=OFF、40Hz、80Hz、160Hz(18dB/oct)/ローパス=OFF、6kHz、12.5Hz、16kHz(18dB/oct)/電源=AC 120V、240V(50/60Hz)DC24V、28V/消費電力=35W/外形寸法=133(H)×483(W)×203(D)/重量=7.7kg

<729A規格>型式=2チャンネル、1/3オクターブバンド・24エレメント・アクティブフィルタ使用/周波数特性=20~20kHz(±1dB)/フィルタ数=2チャンネル・48個/最大挿入損失=中心周波数で-14dB/最大再挿入利得=17dB/入力レベル=ゲインコントロール最少時最大4.5VRMS/出力レベル=10kΩ負荷時で4.5VRMS/入力インピーダンス=100kΩ/ノイズレベル=最大定格出力以下で80dB/チャンネルセパレーション=60dB以上

Power Amplifier

ALTECが自社のスピーカーを理想的条件で駆動させるのを目的として開発した、大出力ステレオ・パワーアンプで、OCLダイレクトカップリングによる出力は、200Wペアチャンネル(8Ω負荷)を超え、モノラルでは800Wの大出力が得られます。

プロ機としての過酷な条件にも耐えられるようフロントパネルにはダイキャスト材が使用され、入力もフォーンジャックキャノンプラグを標準装備、バランス形入力トランスもオプションで用意されます。

再生音は、クリッピングマージンに支えられた迫力あるキャラクターと繊細さが両立したものの、ALTECならではの自由奔放さも、そこに感ぜられます。

<9440A規格>実効出力=両ch駆動200W+200W(20~20kHz、8Ω)・モノラル:800W(8Ω)/歪率=0.1%以下(フルパワー時)・モノラル400W出力時:0.25%以下/周波数特性=20~20kHz(±0.25dB)1W入力、8Ω負荷・5~100kHz(±3dB)1W入力、8Ω負荷/入力感度=0.6V S/N比=100dB(20kHz)/チャンネルセパレーション=80dB以上(1kHz、8Ω負荷)/ゲイン=58.7dB/電源=AC 120V(50/60Hz)/外形寸法/178(H)×483(W)×279(Dmm)/重量=25.6kg

Active Equalizer

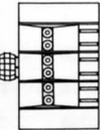
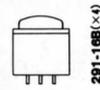
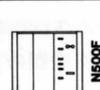
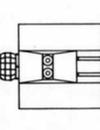
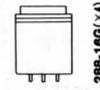
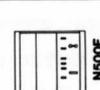
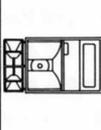
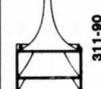
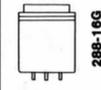
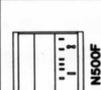
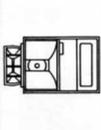
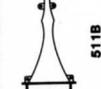
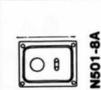
最近の劇場やホール、家庭で云うならばリスニングルームの音響特性は、使用機器のクオリティに加えて、ルームアコースティックの条件が加味され総合評価されるようになりました。ところが、劇場やホール、リスニングルームの音場特性は、非常にままならず、複雑なピーク、ディップの連続であり、従来の7~9素子のいわゆるグラフィックイコライザーでは、バンド巾が広く、しかも肩特性がプロードで実際の補正は不可能でした。

ALTECアコースタ・ヴォイスイングは、1/3オクターブという非常に狭いバンド巾をもつ、シャープな肩特性の特殊フィルタを開発、可聴周波数帯域を26の素子に細かく分割させそれぞれのポイントとなる音圧をプロットし、逆補正カーブで、総合的な音響レスポンスを±0.5dB以内に収めてしまうという、極めて驚異的かつ画期的なものです。

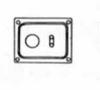
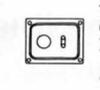
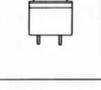
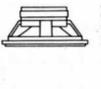
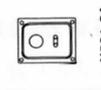
補正後の特性は、リスナーの位置で最良になるよう調整され、しかも、音響機器の特性を含めたオーバーオールレスポンスですから、自然で明瞭、包み込まれるような原音に近い再生音が得られます。

機種には、コンシューマー用として、24素子の2chブロックをスタックしたステレオ用729A、プロ用として、26素子の1ブロックシステム9860Aの2機種があります。

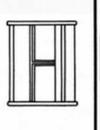
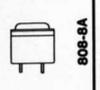
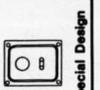
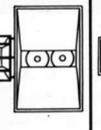
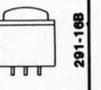
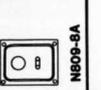
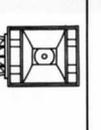
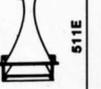
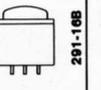
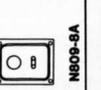
Voice of the Theatre Series

A1X					
A4					
A-5					
A7-500-8					
A7-8					

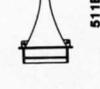
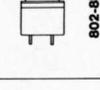
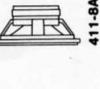
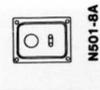
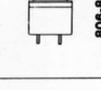
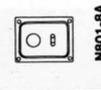
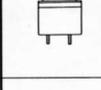
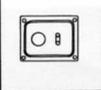
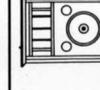
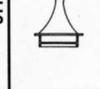
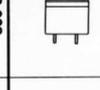
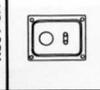
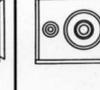
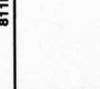
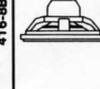
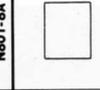
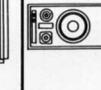
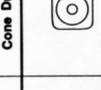
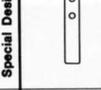
Studio Monitor

620A モニター					
612C モニター					
9846-8A					

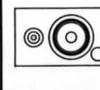
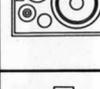
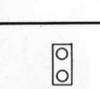
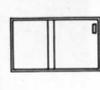
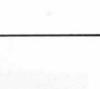
Musical Sound Equipment

1225A					
1215A					
1221A					
815A システム例					
415E システム例					

Hi-Fi Speaker Floor Standing

873A バルセロナ					
846B ヴァレンシア					
878B サンチャゴ					
846E ヴァレンシア					
879A サンタナ					
STONEHENGE II					

Hi-Fi Speaker Bookshelf Type

BELAIR					
MODEL NINE					
MODEL SEVEN					
Dig MK II					



エレクトリは、単なる輸入商社ではありません。 技術力を伴うアフターケアと、創造的プロセスによる 独自の製品で、音の未来を切り開く、 オピニオンリーダーです。

世界から選りすぐった第一級のオーディオ・プロダクトをお届けしているエレクトリでは、技術陣を海外のメーカーに研修派遣し、扱った製品のパーフェクト・メインテナンスサービスを行っておりますが、特にスタジオ機器のQUAD EIGHT、Scully、dbxなどのメインテナンスには、高度な技術力が要求され、優秀な人材と高精度の測定器群（ヒューレットパッカード、B & K製他）を駆使した敏速なアフターケアは、プロ業界でも定評があります。

エレクトリの抱いているフィロソフィーは、オーディオの未来に広がる大きな夢と、それを具体化し実現する世界最新のテクノロジーを日本に紹介し、オーディオ界に貢献する創造的プロセスに積極的に加わり、更に独自のハイグレードな製品をも開発することにあります。

その具体例が最近発表されたミニモニターシステム“ベルエア”や“DIG”であり、これらのシステムはその思想の元に設計され、既にプロのレコーディングエンジニアの方の間でも好評を博しております。

エレクトリは今後とも、その積極的ポリシーを貫き、スピーカーシステムのみならず、各分野での新製品を開発してゆく所存です。オーディオ機器を通じ、音の未来を切り開く、エレクトリの今後にご注目下さい。

ALTEC 製品に対する保障

エレクトリでは、米国ALTEC社より日本に於ける製品の保証サービスを委任されております。取扱店へ出荷する場合でも、一個一個細心の注意を払い動作特性をチェックし、その証として、エレクトリシールを貼ってお届けしておりますが、万が一、動作不良や構造上の欠陥などが生じている場合は、1週間以内にお買い求めの販売店へお知らせ下さい。良品交換、あるいは不良部品の交換修理を無料でいたします。

以後のメンテナンス・サービスの受付は、全国のALTEC取扱代理店で行っております。

 ELECTORI CO., LTD.

ALTECスピーカーシステムの特性表示とその測定法

ALTECに限らず、オーディオ製品を買い求めようとする多くの方は、各社のカタログの特性表示がまちまちであることに気づかれることでしょう。事実各メーカーは独自の測定法により、仕様の表示を行っており、特性の普遍的な測定法の確立が望まれます。

業界のリーダー的存在のALTEC社では、それぞれのプロダクトの特性が正確に表示されるような、できうる限りの測定と表示方法を採用しており、ここにその一環をご説明してみたい。

●周波数特性

一般的には注目される特性ですが、再生帯域の両端を表示するに過ぎません。スピーカー中心の前面で測定され、ステレオで実際に音楽を聴く時はあまり座らない位置でもあります。しかもライブな場所では測定位置が多少変わっただけでF特は大きく変化しますので、スピーカーがどの程度の高低音を出しうるかは、リスニングテストの方がより有効です。

●出力音圧レベル

音圧レベルはスピーカーの効率を表示するもので、与えられた電気出力に対しどれだけ音響出力を得られるかを表します。例えば、100dB SPLのユニット90dBのものに比べて10倍の出力比を持ち、なんとアンプのパワーを10倍にしたのと同じことなのです。このことから、ALTECのスピーカーの音圧レベルが他社に比して断然高く、いかにこの音響変換効率が良いのがお判り頂けることと思います。

ちなみに、この10dBの音圧差はあなたが購入した50W出力のアンプを一瞬の内に500W出力のアンプに変身させる魔力があります。

●最大許容入力

これは最も苛酷なテストの末測られるものです。システムのF特帯域に合せバンドパスされたピンクノイズにより数時間駆動された後、システムが破壊されるまで、5Wずつ出力を増加するのです。

そして、破壊される直前の限界点での入力値が、最大許容入力として表示されます。これはミュージックパワーとかピークパワーとかの生ぬるい表示と異なり、非常に高いレイティング(表示)を示します。

●定格入力

これはスピーカーが基準歪率以下でハンドリングできるパワーレンジを示します。プログラムソースのピーク値を見やすくするため、大きめの出力のアンプを基準としています。この値以上の入力も可能ですが、入力信号は歪んでしまい、クリーンな信号に較べてスピーカーにダメージを与え易くなります。

●最大音響出力

スピーカーがどの位の音量で鳴るかを示し、パワーハンドリング及び音圧レベルの二つの要素を考慮に入れ測定されます。広帯域の音楽信号で長期的に作動させた場合のもので、測定値以上の出力も可能ですが、数時間以上は望みません。

●測定に用いられるピンクノイズとは

しばしば他のメーカーで測定に用いられるホワイトノイズは、周波数毎のエネルギーが一定で、全帯域スペクトラムを構成する上で重要な役割を演じていますが、オーディオ帯域両端での1オクターブ当りの周波数差が著しく、不都合な面も生じます。その点、ピンクノイズはオクターブ毎に一定のエネルギー量であるため測定条件として、最も信頼の於ける方法としてALTECがピンクノイズを採用していることがお判り頂けると思います。





ALTEC社製品日本総輸入代理店

 株式会社 **エレクトリ**

〒161 東京都新宿区上落合1-19-3 モンドビル 403 (930) 6266 (代)

取扱店

K・K 月光社

東京都千代田区神田佐久間町2の13
電話 (851) 9 4 8 9 (代)
振替口座 東京 55,078
取引銀行 第一勧業銀行御徒町支店
協和銀行秋葉原支店